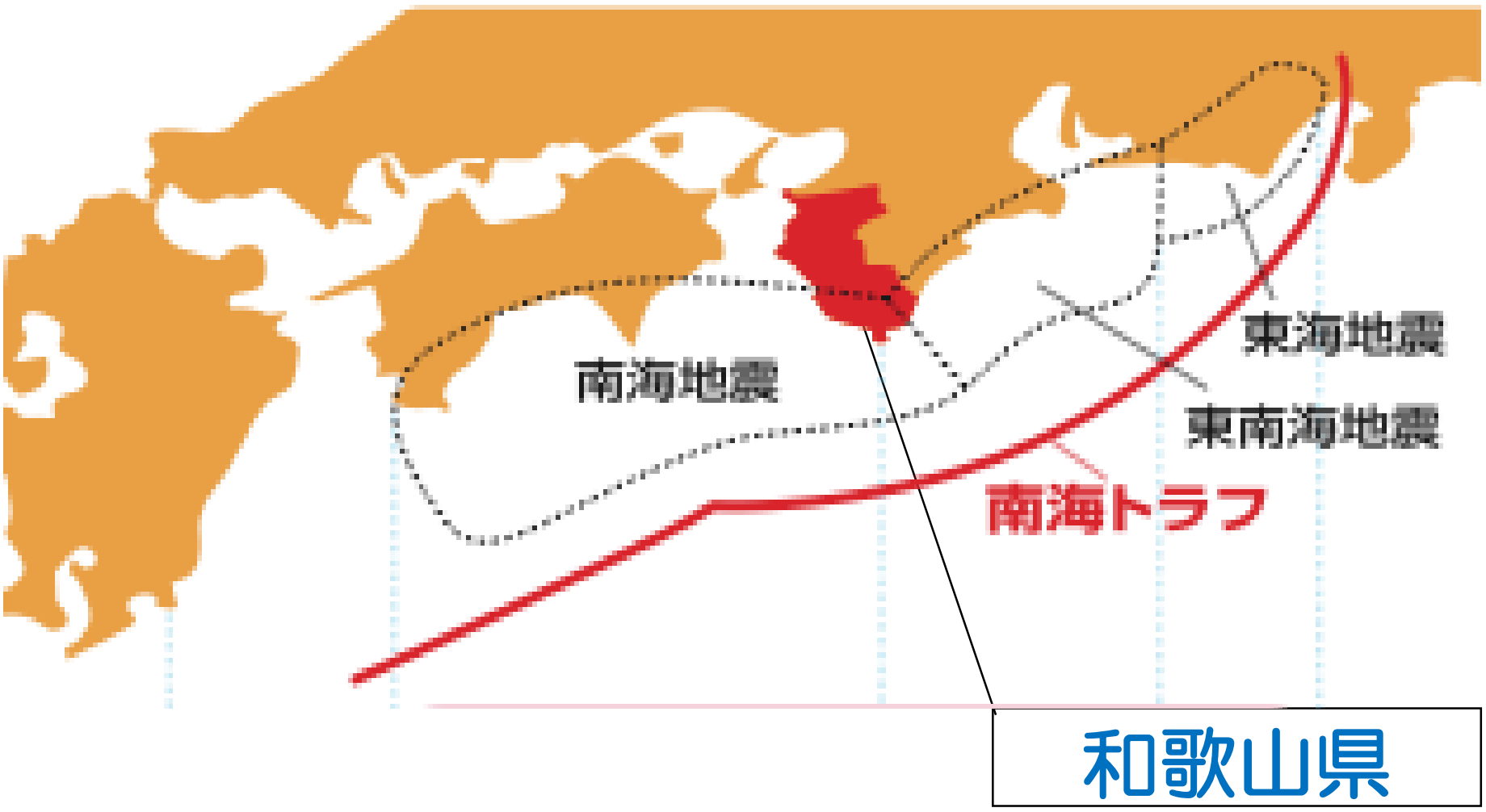
「未来へつながる」防災教育

和歌山県教育委員会
田辺市教育委員会

和歌山県



「地震」「津波」の危険性！！

■ 想定される津波の最大津波高・平均浸水深・到達時間

[H25.3.28 県公表]

市町村	東海・東南海・南海３連動地震 最大津波高	平均浸水深	第１波最大津波到達時間	南海トラフ巨大地震 最大津波高	平均浸水深	津波高 1m 到達時間
和歌山市	6m	0.8m	53分	8m	1.5m	40分
海南市	6m	1.8m	47分	8m	2.9m	39分
有田市	5m	0.8m	41分	10m	1.5m	33分
湯浅町	6m	1.2m	44分	11m	3.2m	35分
広川町	6m	1.6m	43分	9m	3.3m	33分
由良町	7m	2.5m	35分	10m	4.2m	24分
日高町	6m	1.7m	28分	11m	2.9m	16分
美浜町	8m	1.3m	27分	17m	3.7m	16分
御坊市	8m	1.6m	24分	16m	3.7m	13分
印南町	7m	2.0m	24分	15m	5.2m	11分
みなべ町	7m	2.0m	23分	14m	3.9m	11分
田辺市	7m	2.2m	25分	12m	5.0m	12分
白浜町	7m	2.1m	12分	16m	4.3m	3分
すさみ町	7m	2.4m	10分	19m	5.6m	3分
串本町	10m	2.6m	5分	17m	5.7m	3分
太地町	6m	2.3m	7分	13m	4.9m	3分
那智勝浦町	8m	2.3m	10分	14m	4.5m	3分
新宮市	7m	2.2m	11分	14m	3.2m	5分

平均浸水深…浸水が予想される領域の平均値

沿岸18市町及び古座川町では南海トラフ地震の新たな浸水想定を反映し、津波ハザードマップが改定されていますのでご確認ください（平成26年配布）。

浸水の予想される地域の方もその周辺地域の方も、日頃から避難の準備に取り組みましょう。

地震後、３分で１７ｍの津波予想も！！

和歌山県の地形と河川

「水害」「土砂災害」の危険性！！

したがって…和歌山県は、

「防災体制の構築」が急務

「防災教育」の重要性

和歌山県が進める防災教育の三本柱

学校安全総合支援事業

高校生防災スクール

防災リーダー育成

防災リーダー育成事業

【目的】
災害時に、迅速かつ的確な判断が下せるリーダーの育成

【対象】
県内全ての小・中学校、県立高校・特別支援学校の管理職・防災担当者

【講師】
人と防災未来センター、和歌山大学、
和歌山地方気象台　等

防災リーダー研修会のようす

避難所運営訓練（ＨＵＧ）

高校生防災スクール

【目的】

- 中学生・高校生の防災への意識を高める
- 地域の防災の担い手となる高校生と教職員の養成
- 学校と地域の連携を図る

【対象】

県内全ての県立中学校・高校で実施

パーティションづくり

避難所運営ゲーム（ＨＵＧ）

配膳訓練

受付訓練(地域の方と)

心肺蘇生法(消防署)

土嚢づくり(陸上自衛隊)

電車からの避難(ＪＲ)

和歌山県学校安全総合支援事業

【目的】

モデル地域における防災教育の成果等を県内の他地域にも普及し、県全体としての持続的な体制整備の構築を図る。

【方法】

- 県内モデル地域の設定
- 実践発表会の開催
- 報道機関等へのプレスリリース

→　**県内全体へ発信！！**

和歌山県学校安全総合支援事業
委託市町村（モデル地域）

田辺市の防災教育

市章

人口約7万人
東西約45km
南北約46km
県内第1位の面積

未来へつながる道 田辺市
JUNCTION TO THE FUTURE

１．田辺市の過去の災害について

１９４６年　昭和南海地震

Ｍ８．０
津波の高さ約４ｍ
田辺市死者・行方不明者４６名

２０１１年　台風１２号による紀伊半島大水害

熊野川の氾濫（田辺市本宮町）

伏菟野地区の土砂災害

浸水した本宮小学校の運動場

・人的被害

死者８人、行方不明１人

・９月４日のピーク時　４６８世帯
1,０５１人が市内各所の避難施設
（全数１９０：学校３８）に避難

沿岸部　→　津波
中山間部　→　洪水
山間部　→　土砂災害

・それぞれの地域に応じた対策が必要。
・防災への取組の学校間の温度差。
・住民、教職員の自然災害への意識の低さ。

南海トラフ巨大地震や豪雨災害の脅威

↓

防災教育の充実

２．田辺市の防災教育について

（１）「田辺市防災教育担当者会」

平成２４年発足

防災アドバイザー
片田敏孝先生
(当時群馬大学)

田辺市防災まちづくり課

田辺市消防本部

田辺市防災教育
担当者会

田辺市教育委員会

小学校２７校
中学校１４校

沿岸部ブロック	１１校
中山間部ブロック	１０校
山間部ブロック	２０校

田辺市防災教育担当者会の取組

平成２４年度

震災を知る

・岩手県釜石市視察
・**NHK**シンサイミライ学校

平成２５年度

市内の取組の共有

・津波防災シンポジウムの開催
・防災教育実践集録の作成

平成**26**～**27**年「田辺市防災教育の手引き」作成

市内全**41**の小・中学校から防災教育の担当教員が集まり、指導案を作成

「田辺市防災教育の手引き」の特徴

1. **学校周辺の災害特性を考慮**した授業内容
2. **子供の発達段階**に応じた年間指導計画
3. **教員がどこに赴任しても、防災教育の授業を展開できるように**

ブロック別に重点を置くテーマに特色

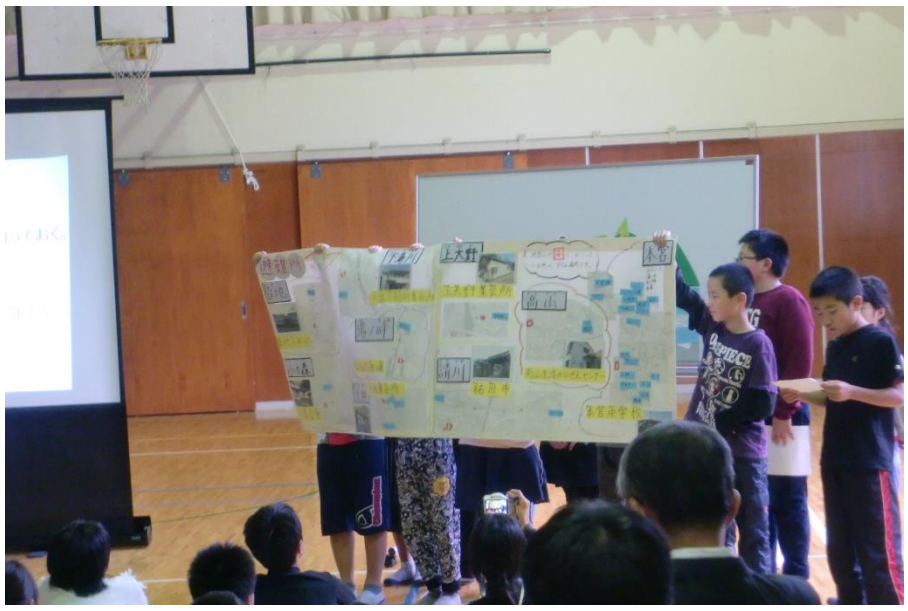
- **沿岸部** 津波
- **中山間部** 洪水
- **山間部** 土砂

小学校低学年・中学年・高学年・中学1年・中学2年・中学3年

3ブロック×（**3**学期×**6**学齢別）＋ **α**

＝ 計**61**資料

ブロック別　研究授業の実施



各ブロックごとに毎年３校、研究授業を実施。
防災教育担当が参加して自校での実践に生かす。
今年度までに、小学校８校、中学校８校実施。

平成３０年度末に実施したアンケート調査

問１ 「手引き」を活用できたか。	できた　　８９．２％ できなかった　１０．８％
問２ 「手引き」以外の防災授業を実施したか。	・１２号水害について、地域の方と授業。 ・地域の方と一緒にマップ作り。 ・地域と合同避難訓練。 ・田辺市消防方部と連携した授業。 ・道徳と防災のコラボ。
問３ 「手引き」を活用できない理由、実施したときの課題や成果。	【課題】・授業時間の確保 ・地域との連携 ・授業展開のマンネリ化 【成果】・防災への意識・関心の向上 ・避難行動の円滑化 ・地域との連携が深まった

（２）生徒同士の防災をテーマにした交流会について

学校や年齢の異なる生徒同士が、「防災」をテーマに交流することで、災害を生き抜く力を高めるとともに、主体性、コミュニケーション力、地域に貢献する気持ちなどを高め合うことを目指す。

- 平成２８年から毎年８月に実施。今年度で４回目。
- 市内、近隣の中学生、高校生が参加。
- 講演、体験、ワークショップ、振り返り。
- 学んだことを自校で報告。

①災害を知る活動

災害を経験した方や防災の専門家の話を聞き、災害のことを知る活動。

紀伊半島大水害語り部　久保栄子さん

東京大学　片田敏孝先生

土砂災害啓発センター所長　坂口武弘さん

NPO法人さくらネット　河田のどかさん

②災害を体験する活動

起震車体験

かまどベンチで炊き出し体験

災害用非常食体験

災害を科学的に体験する実験

③防災や命について考えるグループワーク

自校の防災について発表、意見交流

災害対応カードゲーム「クロスロード」

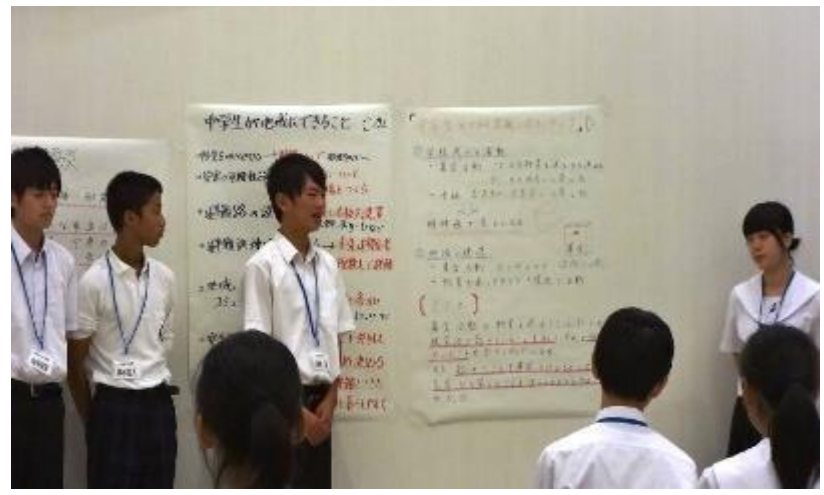
避難所運営図作成

【例】
あなたは田辺市消防署救急隊員
「多くのけが人が出た現場。がれきの下から家族が救出された。父親と母親は重傷だが、意識があり手術すれば助かりそうだ。一方、子ども（保育園）は心肺停止状態。どちらを先に搬送しますか。」

・教員と生徒が同じグループ。
・グループ内で意見交流し、グループで出た意見を発表。

④研修のまとめ、振り返り

グループに分かれアクションプラン作成（平成２８年度）



１　学校でできる防災
２　家庭でできる防災
３　中学生が地域にできること
４　中学生ができる支援・ボランティア
５　将来、防災とどう関わっていくか

各グループのアクションプランを持ちより「ぼうさい未来宣言」を作成

平成２８年度「ぼうさい未来宣言」

私たちは、和歌山県紀南地方から集まった中学生です。私たちの住む地域は、めぐみ豊かな海、暖かく住みやすい気候、世界遺産の山々など、素晴らしい自然にあふれています。長い歴史の中で、大地の変化は美しい景観とともに、豊かな生活の場を与えてくれました。しかし、自然はときに、地震や津波、風水害という試練を私たちにもたらします。

私たちは、「ぼうさい未来学校」を通して、命を守ること、人と人とのつながりの大切さを学びました。

今、私たち中学生は、未来に向かって宣言します。

一、私たちは、お互いに助け合い、笑顔や思い出を絶やさないために地域とともに生きていきます。

一、私たちは災害から学んだ、当たり前の大切さ、備えの大切さを、次の時代に伝えていきます。

一、私たちは災害に対して、
「日常的に想定する」、
「意識を高める」、
「自分事としてとらえる」
ことの大切さを、広く呼びかけます。

「未来は私たちが創る」

平成２９年以降

○個人での振り返り→共有

「ぼうさい未来宣言」

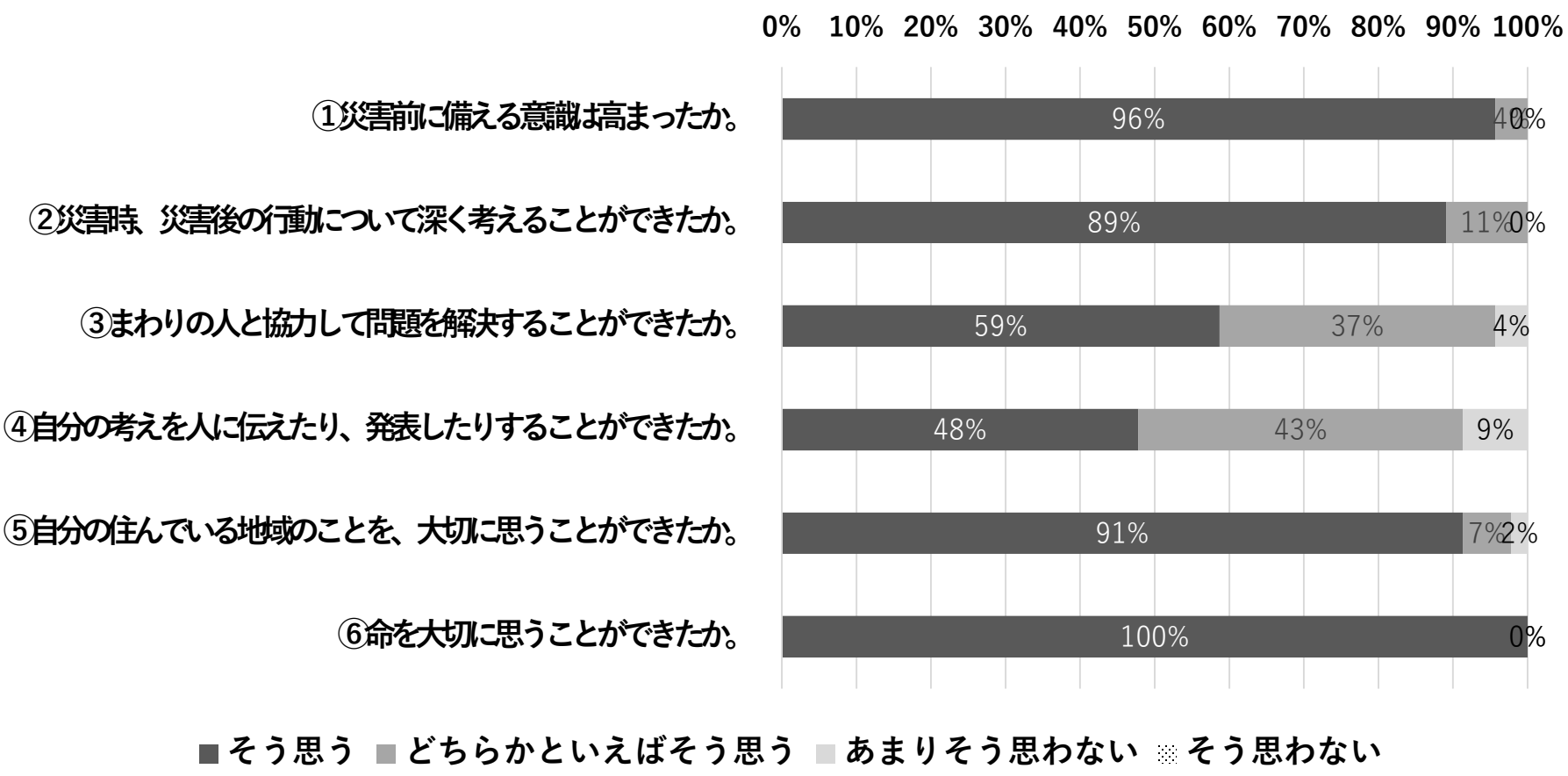
・今日一日の感想
（心に残ったこと、大切だと思ったこと）
・伝えたいこと
・チャレンジしたいこと

○学校ごとの振り返り→発表

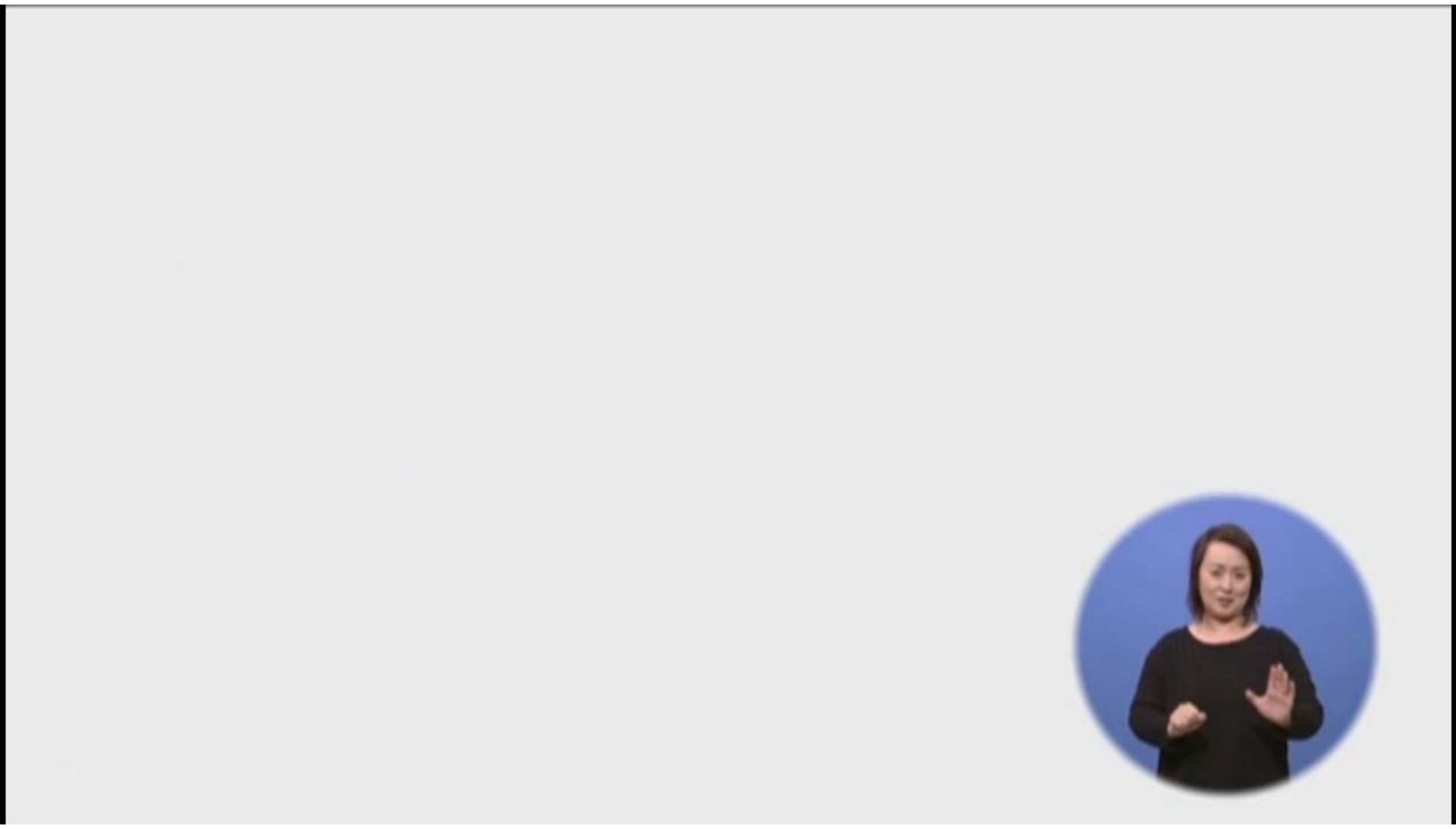
「学校ぼうさい未来宣言」

・学校に帰ってから、みんなに伝えたいこと。
・学校として、みんなでチャレンジしたいこと。

令和元年度ぼうさい未来学校【生徒アンケート】



今年度の「ぼうさい未来学校」のようす



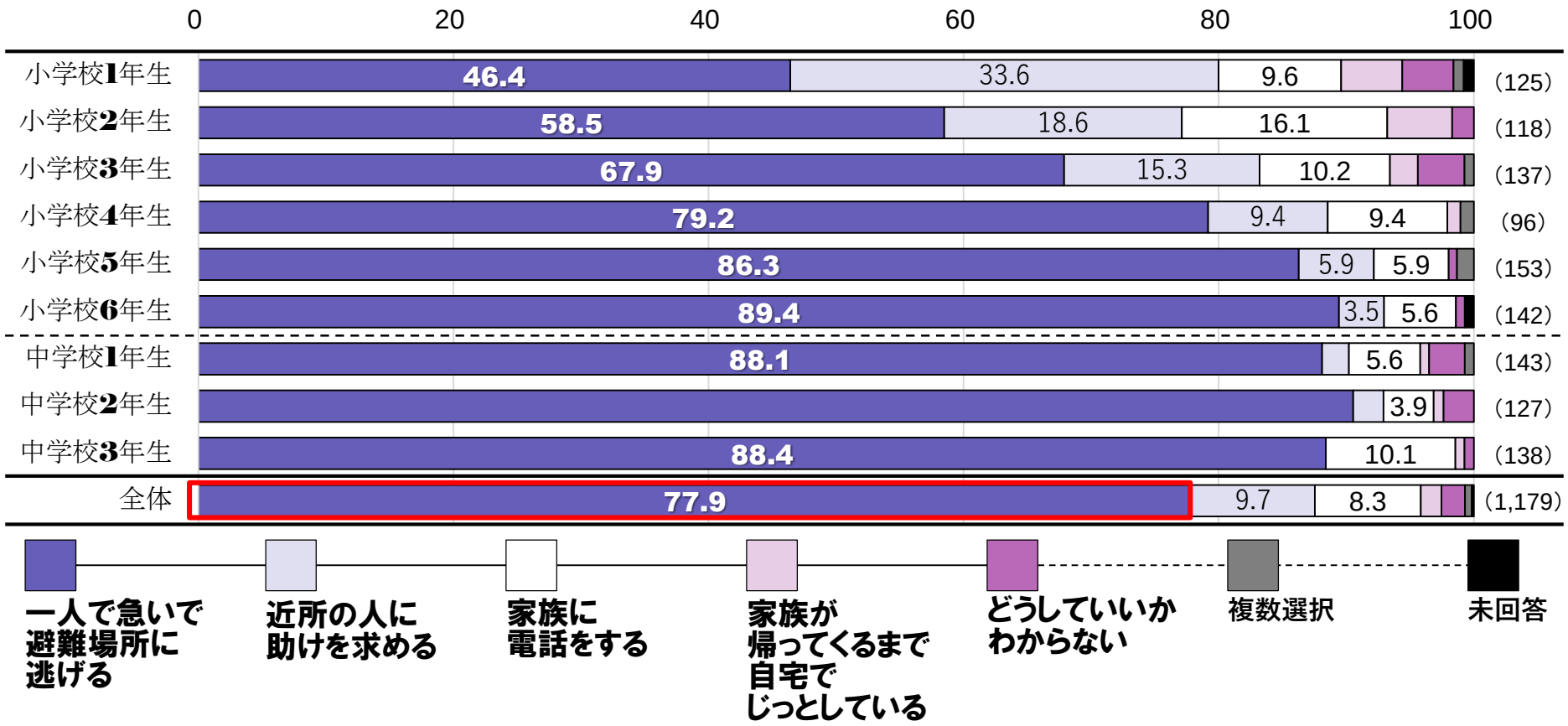
テレビ和歌山「はばたく紀の国～教育は今～」

４．防災教育の成果、学校現場での効果について

児童生徒調査　大地震発生時の対応行動意向

自宅に一人でいるときに、大地震生！
あなたならどうしますか。

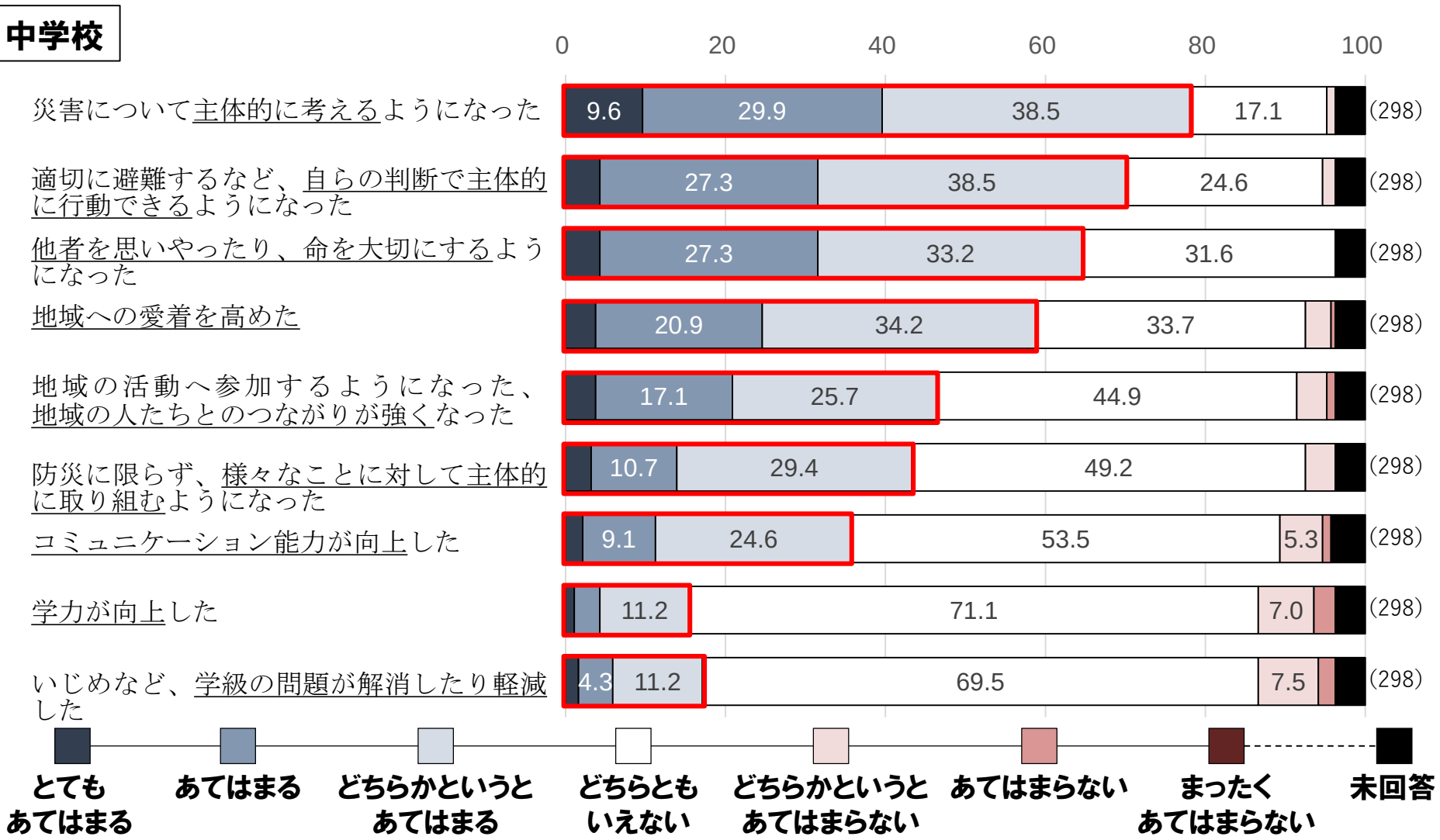
田辺市沿岸部で、
浸水想定区域内に自宅がある回答者（児童生徒）を対象に集計



沿岸部の児童生徒の大半が「一人で急いで避難場所に逃げる」と回答

教員調査　防災教育の実施効果

中学校



小学校においても同様の傾向が見られる

　災害に負けない子供たち、社会を生き抜く子供たちの育成を目指して、今後も防災教育をすすめていきます。

ご清聴ありがとうございました。